

## 戸田市貨物自動車等路上駐車対策協議会が大型物流施設PJ案を企画 「貸し倉庫のメッカ」の戸田市で地場産業の活性化に貢献を

埼玉県戸田市で戸田競艇場バスターミナルを活用した「夜間無料駐車場」を運営する「戸田市貨物自動車等路上駐車対策協議会」(平野泰雄理事長)では、同駐車場の上部空間スペースを活用した大型物流施設プロジェクト(PJ)案を企画 중이다。荒川に近い立地を生かし、大規模災害時には内陸水運による緊急物資輸送拠点としても活用が見込まれるほか、市の土地の有効活用や雇用の創出にもつながる。戸田市は「貸し倉庫のメッカ」と言われてきたが、近年、圏央道周辺の県内他地域に物流拠点がシフトしていることもあり、大型高機能倉庫の実現

により、地位の回復を狙いたい考えだ。

### 現在利用している「夜間無料駐車場」

戸田市は埼玉県南部に位置し、道路網の整備により物流拠点が集積。恒常的に大型トラックの路上駐車が

多く、通行の妨げや事故の誘発の恐れがあった。とくに夜間

### 「夜間無料駐車場」に隣接する駐車場

時間帯は照明を消した状態で路上駐車している。と、追突する危険性が高く、また、エンジンをかけながら仮眠をとっているドライバーも多い。そのため、市民からの改善要望や地元警察署の取り

締まり強化が打ち出されていた。

トラックの違法駐車による事故撲滅を目指し、地元の営業倉庫、貸し倉庫、運送会社などが連携して「戸田市貨物自動車等路上駐車対策協議会」を2004年に発足。発起人の小山利副理事長(小山企業会長)の働き掛けにより、戸田競艇場との交渉が実を結び、夜間は使っていない戸田競艇場バスターミナルをトラック用の「夜間無料駐車場」として一般に無料開放することとなった。

「夜間無料駐車場」の利用時間は午後10時～午前7時までで、管理・運営を協議会が担当(警備は外注)する。約50両分の駐車スペースのほか、男女トイレも設置されており、周辺には住居がなく安心して仮眠できることから、ドライバーの口コミで利用が広がっている。11年度の年間利用数は定時調査で5353両だが、夜間に何回も出入りする車両や他の時間帯の利用車両も含めるとその数倍の利用が想定される。

協議会ではこれまで路上駐車対策の一環で「夜間無料駐車場」の清掃活動にも積極的に取り組んできたが、ボランティアの延長で、1階は駐車場、2～4階が倉庫スペースといったイメージで大型物流施設を企画。競艇の売上が落ち込んでいる中、路上駐車対策に加えて、市の土地の有効活用やパートなど雇用の創出などを念頭に「夜間無料駐車場」と隣接する駐車場に計6万6000平方メートル規模のランプウェイ付き大型高機能物流施設を建てる——という構想だ。

一昨年には国土交通省が荒川とその河川敷に設置した「板橋リバーステーション」を活用し、内陸水運の実証実験が行われるなど、戸田競艇場およびその駐車場の立地は、大規模災害時における緊急物資輸送の観点からも防災機能を備えた物流拠点としてポテンシャルが高い。協議会、戸田市、協定ともにメリットが見込まれるため、地場産業の活性化に貢献するため、協議会発足10年目となる16年に企画の実現を目指している。

